

会 議 の 概 要

会議名	令和4年度(2022年度)第1回宝塚市観光振興会議	
開催日時	令和5年(2023年)3月6日(月)13時40分から15時45分	
開催場所	宝塚市立中央公民館 209・210 学習室	
出席者	委員	吉兼会長、和田副会長、安東委員、村井委員、横山委員、 椿野委員、田中委員
	事務局	産業文化部長、宝のまち創造室長、観光企画課長、 観光企画課係長 3名、観光企画課職員 1名
公開の可否	可	
傍聴者	0名	
議題及び結果の概要		
<p>1 開会</p> <p>2 委嘱辞令交付等</p> <p>(1) 辞令交付</p> <p style="padding-left: 2em;">市産業文化部長より各委員へ委嘱状を交付</p> <p>(2) 市挨拶：産業文化部長</p> <p style="padding-left: 2em;">7名の委員のうち、5名の委員が新たに加わっていただくこととなった。吉兼委員、和田委員には宝塚市観光振興戦略の策定に携わっていただいた。策定した戦略を実践に移そうというタイミングで、新型コロナウイルス感染症が拡大し、3年間ほど停滞することとなった。観光事業者の中には、経営の岐路に立たされた事業者からの声が多く入ってきた。市として、全体的にセーフティネットとしての支援に注力せざるを得ない状況であった。観光どころではなく、自宅から出ることさえできない時期もあったが、いよいよ戦略の実践に移行できる時である。各委員のみなさまからの意見もいただきながら、皆様とともに進めていく観光をスタートしたいと思っている。そのような中、当市の観光振興はウェルネスをキーワードにしている。宝塚歌劇や手塚治虫記念館は唯一無二の存在であることを誇りに頑張っていきたい。市域だけにとどまらず、阪神圏域全体や他都市と連携するなど、広域での観光行政が必要であると思っている。また、本市の施策が各委員からどのように見えているのかをご意見いただければ幸いである。インバウンドも平常に戻りつつあり、休日には外国人観光客と思われる方が多く見られるようになった。農村部の原風景でさえ、インバウンドにおいては関心を持ってもらえることから取り組みを始めている。こういったことを含めて成果目標の達成に向けて尽力していきたい。なにより、観光としてウェルネスを楽しめる時代になればと思っている。ぜひ忌憚な</p>		

きご意見をいただきたい。

(3) 会議の成立・会長及び副会長の選出

(宝塚市観光振興会議規則第6条第2項の規定により、成立)

(出席委員7名)

(同規則第5条第1項の規定により委員の互選によることから、会長に吉兼委員、副会長に和田委員とする事務局案を全員一致で承認)

会長挨拶

会長) 新しい戦略を策定している最中は新型コロナウイルス感染症もなかったが、すでに「Well-being(ウェルビーイング)」というテーマは決まっていた。この言葉は「幸せ」という言葉で置き換えることもできる。Welfare(ウェルフェア)となると福祉における政策のようなものであるが、Well-being(ウェルビーイング)とは、目的として、幸せな市民生活や来訪者も幸せになるというという視点を意識しながら、計画を振興していこうというものであった。少しずつ平常に戻り始めているが、コロナ禍で私共の気持ちは大きく変化し、加え戦争も起きている。観光振興には最も厳しいものであるが、過去の歴史から戦争の後には必ず大きな観光が起きている。Well-being(ウェルビーイング)の実現に向けて委員の方々には忌憚なきご意見をいただきながら、市として実行していただきたく思う。

(4) 傍聴について

事務局より宝塚市観光振興会議傍聴要領の説明を行う。

傍聴者の有無、確認：傍聴希望者なし

3 議事

議題1 観光客動向実態調査等報告

事務局から観光客動向実態調査等報告を行い、その後質疑を行う。

委員) 外国人はどこに訪問しているのか。

事務局) 統計方法にもよるが手塚治虫記念館では外国語のパンフレットが取られた冊数や、宿泊施設からの集計報告に基づくものである。実際にどこに訪問したかを詳細に追えているわけではない。

委員) どの国からの来訪か、まではわかっているのか。

事務局) 属性まではわかっていない。手塚治虫記念館では多言語パンフレットを

作成していることから、どの言語のパンフレットが取られているのかを
見ること
で想定することは可能である。

委員) 概ね東アジアか。

事務局) そうである。

会長) 今の質問のようなデータは年に1回は取得するようにするのか、
または、
しているのか。

事務局) 徐々にアジア方面から増加してくると思われるが、可能な限り統計として
取得できるように進めていきたい。

会長) 新型コロナによりマイクロツーリズムという言葉が流行りはじめ、「身近な
ところから」という考えになった。海外旅行に諦めを持っている人もいるかも
しれないが、一方では、今まで海外旅行に行けずに我慢していた人もいる。日
本では海外に行くことに憶病になっている人や、旅行費用が高騰していること
から行けないという状況もある。マイクロツーリズムという考えもあるが、国
内でも北海道などへの旅行にも関心が高い印象である。

事務局) 円安が影響しているのか。

会長) その影響は大きいと思われる。他に、日本ではコロナに対する恐怖がなか
なか払拭されていない。また、戦争によりヨーロッパにいく飛行機もないとい
う状況もあった。また、屋内に人が集まることを敬遠し、屋外にいく観光資源
が人気を集めた。家族や夫婦などの2~3人での旅行には抵抗感は少なかった
と考えられる。旅行会社においても、バス1台での観光には苦戦していたが、
夫婦や家族単位でのバス旅行の需要は高まる可能性があるとは聞いた。温泉は
人気があるが、若年層はサウナに関心が高い状況であり、大浴場ではなく家族
風呂のような貸し切りでの需要が高い傾向がある。宝塚市においても、温泉需
要への可能性は高いと思っている。宝塚市国際観光協会としてはこの3年間を
どのように感じられているか。

委員) 昨年7月から市国際観光協会に着任したが、着任までは旅行会社に従事し
ていた。会長のご意見に加え、もともと若い女性の一人旅が徐々に増えてきて
いた環境の中に新型コロナウイルス感染症が蔓延し始めた。過去は、一人旅を
受け入れる旅館等からすると、様々なトラブルが発生したりすることを考慮
し、受け入れに積極的ではなかったが、近ごろは1名利用が一般的になってき
た。旅館としてもおひとりで食事していることが気がかりだったようだが、お
ひとりで食事をするための抵抗感を無くすような取組を進められている。一
方、インバウンド対策として、ガイド研修等を実施したが、実態としては阪神
間のガイド・通訳士の方々は京都まで出稼ぎをしに行っている状況である。一
日でも早く地元の観光資源を案内したいという声があるため、そういった環境
を作っていくかといけないと感じている。

会長) 韓国や台湾などは動き始めている。既に日本を知っていると思われる方々が戻ってきているのではないかと感じる。もう一回京都に行こう、というマインドになるだろうが、日本は京都だけではないという情報をこちらからきちんと発信することが大事である。また、我々が海外に旅行するときは、国を越えて楽しむものであるため、宝塚市だけで頑張るのではなく、県内や関西といった広域な取組が必要である。

議題2 現戦略の進捗状況の報告

事務局から現戦略の進捗状況の報告を行い、その後質疑を行う。

委員) コンテンツの開発支援は当該年度限りのものか。

事務局) 初期投資といったイニシャルコストを、最大 50 万円を支援している。

委員) 次年度以降に継続していくためのアフターフォローは具体的にどんなことをしているのか。

事務局) 県や市の他の補助金を獲得していただくことと、事業を実施していく中で単年度の支援であることをご理解いただいたうえで進めており、次年度以降の負担は発生していくため、協賛をもらうなど市の支援がなくても実施していただくようお願いしている。

委員) 採択されるとき審査基準とはどのようなものか。

事務局) 観光として商品化できるものや、誘客が見込めるものを基準としている。ただ、イベントの内容によっては受け入れのキャパシティの関係から、多くの人を集めることができないものもある。そういったものは付加価値を高めて、少人数でも楽しめるようにしたり、宿泊施設と連携したりするなど、各事業者の思いや目的によって観光コンテンツとして作り上げてほしいと思っている。

会長) コロナ前に戦略を作りはじめ、当初はオーバーツーリズムを意識した戦略を考えていた。今のように人が少ないときにこそオーバーツーリズムにならないような仕掛けを組み込んでいかないと、キャパシティを超えてしまったり、環境を破壊したり、人々の気持ちが崩れてしまう。この事業により実施したイベントは情報化されているのか。採択された事業者同士が共有できるようなものはあるのか。

事務局) 先日、採択事業者間で報告会を実施した。市としてもこの2年間の実績を広く周知できればよいと思っている。

会長) 戦略では3つの基本方針があるが、別々に事業として設定するのではない。地域資源を掘り起こしてから、さらに情報発信を行い、また新しい人材が生まれたりして持続するといったように、この3つの基本方針が一体となって推進

させていかないといけない。一つの効果から様々な効果を生むためにも、この3つの視点での評価が必要である。可能であれば、自らが補助金行政を構築し、国が補助金を創設したら、真っ先に市がもらってくるという流れであればよいが、行政として推進予定もないことをしてまで補助金を獲得する傾向が生じることはよくない。いろいろな人が集まることは良いことである。今の取組をもっとシェアしていく必要がある。

委員) 紹介いただいた事例は、宝塚市にずっと住んでいる者でも、全く知らなかった。このような企画を今後どのように市民や近隣住民への周知していくのか。

事務局) 市民への周知は広報誌や市のLINEや掲示板を活用しているため、市民への周知はできていると思っている。近隣住民への周知はSNSや阪急電鉄との連携においてチラシラックにチラシを設置したり、情報誌のTOKKも活用したりしている。市民の方でも知らないという声は入ってきている。もっと広く届くように取組をしていく。

会長) 今はリアルタイムに情報が流れていく時代であり、整理して結果を周知することは必須である。先日、キッチンカーのグランプリに参加したが、来訪者にその場で情報を発信させていた。QRコードなどにより、リアルタイムに発信することが大事ではないかと考える。公が発信するものだけではなく、個人が発信する情報の方がキャッチされている。様々な年代が、様々な手法で発信できるということに常に気を配っておく必要がある。行政単独で実施するのは困難であるため、いろいろな人がいろいろな方法で発信できる環境づくりを行ったり、どんな情報が世の中で動いているのかを調査研究したりする必要がある。せっかくやっていることが、来た人だけが満足している状況は勿体ない。波及効果が必要である。

議題3 令和5年度の実施予定事業について

事務局から令和5年度の実施予定事業の説明を行い、その後質疑を行う。

委員) 市民貸切公演とはどういったものか。

事務局) 宝塚歌劇の公演であり、コロナ禍以前に市民向けで実施していた。その事業を再開したいと思っている。市としても条例で「歌劇のまち宝塚条例」があり、市民にも歌劇の歴史を広く知ってもらうことを目的で市民向けに全席貸切公演を実施している。

会長) 一日だけの実施か。

事務局) そうである。

会長) 委員の方で、参加したことはあるか。

委員) 貸切公演に参加したことはないが、中学生のときには芸術鑑賞会として宝塚歌劇を観劇したことはある。

事務局) 宝塚歌劇のご協力のもと、市内の中学校向けに学校の行事として開催しているものである。

委員) O T Aで楽天トラベルを活用してキャンペーンするということが、宿泊施設のためか。それとも、先ほどの説明のあった観光コンテンツのためか。

事務局) 楽天トラベルのシステムを活用し、専用のクーポンを発行するというものである。

委員) 宿泊施設に直接誘導する取組か

事務局) お見込みのとおりである。市国際観光協会と連携して実施している。通常、各宿泊施設において独自で宿泊割引を実施していると思われるが、楽天トラベルで宝塚市専用のページを用意し、各宿泊施設へのリンクを用意することで、トータルで販売推進するというものである。宿泊割引やクーポンを発行し、まずは宿泊してもらうということを重視した。

委員) インバウンド育成プログラムとはどういったものを実施したのか。

事務局) 本日、市国際観光協会からも共有があると思うが、西谷エリアを対象としたコンテンツ作りをしていただいております、そのためのガイド育成である。今年度、観光庁の補助金を活用したモニターを実施したが、次年度も引き続き実施していく予定である。

副会長) 戦略策定にあたり、会長とご一緒させていただき、チェック機能として新たに審議会が始まった。コロナ禍と重なってしまったが、事務局がいろいろな取組をされているということはよくわかった。そのような中において、3つの視点を申し上げたい。まずは、オーバーツーリズムにどのように対応していくのかという視点で始まった審議会であるが、この状況を予見していたかのように、ウェルネスというキーワードを掲げて戦略策定が始まった。今後、コロナ明けのインバウンド需要が拡大していくところだが、一方でラグジュアリー観光という、限られた人がいかに消費をするかといった視点に走っている部分もあるが、その視点には逆説的であり、身の丈にあった観光をしっかり市として考えていただきたいと思っている。次にラグジュアリー観光とウェルネスが全く相反するものではないが、ウェルネスというものの非常に重要な点は、宝塚市は住民との共生があり、その暮らしの尊重の中に観光があり、ウェルネスがあるという点である。ラグジュアリー観光だけを求めるのであれば、インバウンドに比重を置き、収益最優先の施策に流れていきそうなところであるが、市民が置いてけぼりとなる。ウェルネスというものを、市民を含めて市外の方もどれだけ共感できるのかが重要となる。日常性というものを考えていかないと、見えていなかった弊害が出てくる。市内事業者のワークショップな

どを実施したこのウェルネス事業は非常に良いと思う。ただ、先ほど指摘があったとおり、知らなかった方々も存在するのは勿体ない。こういった声が、市民や事業者のレベルから出てきているということは、非常にいいウェルネス事業のスタートになっていると思った。1つ目は「身の丈」、2つ目は「住民との共生」、3つ目は「ローカルの出し方」である。インバウンドへの対応については、多様性という概念において、多言語対応に加えLGBTの観点も必要になってきている。旅館に然り、様々な施設において言語だけではなくソフト面での対応が大事になってきている。加え、身体障害者への対応も同様である。来訪を促進しても、対応ができない状況ではいけない。まだまだ潜在的なものを掘り起こせるチャンスがあるこの会議は毎回ワクワクさせてくれる。Well-being(ウェルビーイング)という概念において、みなが幸せを感じられることが必要であり、居住地も兼ねた部分も生かして、単なる観光地であってはいけない。来年度からの事業においても意識していただきたい。市制 70 周年においては、この視点での取り組みに期待している。

会長) 市制 70 周年の話がでたが、2025 年には大阪・関西万博があるが、これに対する取り組みはあるのか。

事務局) インバウンド向けのコンテンツを開発している。

会長) 万博会場以外では各地域が一つのパビリオンであるという概念を持ち、このまちがパビリオンとしたときに、どのようなことを見せることができるのか、どのような体験ができるのかを考えてほしい。ただ、現状はコロナ禍であり、物事がまだゆっくり取り組める状況である。観光客が一気に流入するとそれに対する対応で時間も人も割かれて新しいことにチャレンジできなくなる。今はじっくりと検証しながら前に進むことができる時期である。また、情報は発信するだけでは意味がなく、伝えることが重要である。

議題 4 その他

(1) 次回開催日程について

後日、事務局より日程調整を行う旨、事務局より説明

(2) その他

各委員から所属団体の取組等について共有

会長) 宝塚市国際観光協会様におきまして、今年度の観光庁の補助金の「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出」事業が採択されたと聞きましたが、こういった事業かご説明いただきたい。

委員) 観光庁補助金の「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の

創出」事業は、コンテンツの造成から販促まで一貫して支援いただける事業である。昨年7月に公募が開始され、日本コンベンションサービス様が主体となって事業計画を提出し採択された。インバウンド限定というものではないが、2025年の大阪・関西万博に絡めた3つのコンテンツを造成した。MICEにおいては、市内に大きなバンケットがあるわけではないため、分科会やサテライトといったものやそのエクスカージョンをターゲットにした。1つ目は阪神モダニズムの代表である宝塚ホテルで食事をしていただき、OGショーを開催するというものであり、宝塚市で観ていただくということに付加価値をつけた。2つ目は中山寺の五重塔を含めた夜景観光コンテンツである。海側を臨めば尼崎エリアまで夜景を楽しめる。加え、明月記様できれいな夜景を楽しみながら食事を楽しめるというコンテンツである。3つ目は西谷地区のつりしのぶ様やエビスシマダ様にご協力いただいた体験型のコンテンツである。西谷は里山であり、時期によって景色も変わることから提供内容も変わる。フランスでは自宅において植物を育てる風習や習慣があるため、つりしのぶの製作体験はフランス人には好評であった。エビスシマダ様は西宮神社をはじめ、全国の神社に福の面を卸されている事業者で、この場所で縁起物をつくっていただくというものである。また、現在はプロモーション動画や紙媒体のツールを準備している。2月9日に、観光庁に採択された350のコンテンツのうち、16の旅行会社に商談できる機会があり、アポイントメントのマッチングができたため、参加することができた。その商談会で、告知や販売についてもいろいろな意見交換ができたため、さらに深堀して詰めていきたい。ただ、西谷エリアのコンテンツは、SDGsの関係から修学旅行での需要が高かったが、受入側の整備が整っていないなどの課題もある。2月15日には市国際観光協会の会員向けに、この事業の説明会を開催し、日本コンベンションサービス様から万博についての講演もしていただいた。

委員) 通訳士は市内在住の方か

委員) 市外の方も含まれている。

委員) 市外に居住されている通訳士が実際にガイドできるようになると非常に良い。この事業は非常に面白いと感じた。3つのコンテンツのうち、つりしのぶには非常に興味がある。宝塚市の植木産業は文化があり、宝塚歌劇と花とが非常にマッチしている。花や植木をもっと活用すればよいと思っている。大阪、京都の観光をした後に兵庫のどこにいくかとなったときに、宝塚市のつりしのぶはオンリーワンであると思っている。盆栽というもの自体が海外の方には人気であり、自分で美しいものを作ることができるということは非常にいい体験である。

委員) ただ検疫の問題が発生している。輸出する際に、個人で作成したものに対

して燻蒸処理ができるのかどうかは課題である。

委員) 海外の方は、「なぜ、ここに、これが存在しているのか」という背景を知りたいと思っている。これに対してガイド育成ができていることについて、県としては、関西や瀬戸内地方ともタイアップしてルートづくりを行うため、花や植木に興味がある方にランドオペレーターを紹介するという流れが作ることができればよいと思っている。ラグジュアリー観光ではなく、高付価値旅行において、地域の歴史などを楽しみたい観光客をターゲットにしている。例えば、丹波焼は登り窯が使われており、後日発送するようなコンテンツ作りもしている。

委員) 宝塚市にも二葉陶房様が登り窯を所有されている。今回、通訳案内士や在日のフランス人の方にも案内した。ただ、登り窯自体は2、3日に渡り火を入れ続ける必要もあるため、ここ数年使われていない。

委員) 丹波焼においても、当番制でやっているため、個人での実施は困難であることは想像できる。

会長) 現在の取組について、県ではどのようなことをされているのかご紹介いただきたい。

委員) 県では大阪・関西万博に向けて動いている。県内各地をフィールドバビリオンと見立てて、万博来訪者のアフターの誘致に取り組んでいる。宝塚市では西谷まちづくり協議会がご申請いただいている。都会から近い田舎として地域づくりされるということを進められようとしている。私自身はインバウンドと国内観光を担当しており、国内観光においては、JR様とタイアップしたひょうごDCを首都圏向けに展開する。今回ご紹介いただいたコンテンツは、シビックプライドを向上する取り組みであり、その取り組みを展開するために、県のひょうごDCやインバウンド施策をご活用いただけるようなら、ぜひご紹介いただきたい。

委員) 商工会議所では、市内事業者向けの経営に関する相談業務が中心となっているが、地域振興も行っている。今年度実施できなかったが、市国際観光協会様と共催の西谷のバスツアーを毎年10月のダリアまつりの際に実施している。阪急宝塚駅から3台のバスで、ダリア園に行き、花摘みをしていただき、宝塚北SAによってお買い物をしていただく事業を行っている。来年度も県へ補助金申請し、実施したいと考えている。その他にも県の補助金を活用し、西谷の多くの特産品を宝塚北SAで販売できるように、「宝塚 花の里・西谷」というブランド協議会を立ち上げ、花の里ブースにて物販を行っている。また、すみれの花をエディブルフラワーとして栽培し、そのすみれの花を使用し、女性パティシエによりすみれクッキーが誕生した。宝塚阪急において販売した結果、大変好評となり、今では宝塚ホテル以外にも東京の第一ホテルにおいても販売

されており、新たな特産品にまでになった。また、旧宝塚ホテル跡地に残っているクスノキを使った芳香剤などの商品開発も進められており、川西や西宮、千里の阪急百貨店の催事ブースにて販売したところ、販売実績も好調で、認知度も向上してきている。地域の商材を使った商品開発を基に宝塚市の情報発信できるように考えている。

会長) コロナにより神社では花手水が有名になっているが、余ったダリアを活用して、商店の店先において花手水のようなものを展開し、ダリアまつりなどと絡めてアピールすることも考えてもよい。商店自体は日用品を販売しているところだが、そういったところでもまちの魅力もアピールでき、さらにその店舗の魅力を向上させることも可能となる。

委員) 阪神北県民局では、宝塚市・伊丹市・川西市・三田市・猪名川町の四市一町を管轄している。市や観光協会などにより構成される兵庫県阪神北地域ツーリズム振興協議会を中心に観光事業を行っている。今年度はインバウンドを中心とした多言語での観光情報を発信する事業をしている。コロナ禍においてもSNSを中心に情報発信をしているが、実際に相手に伝わっているかどうかわからない点が課題であったことから、今年はマレーシア出身のインフルエンサーを管内に2泊3日で招待し、清荒神清澄寺、手塚治虫記念館、宝塚大劇場を訪問し、宝塚ホテルに宿泊された。ウィルキンソン タンサンが宝塚発祥であることを知らなかったとのことから、ウィルキンソン タンサンの自動販売機前で写真撮影もされていた。また、清荒神では「なぜ、神と仏が一緒になっているのか」といったようにその背景を知らないとわからない質問も出た。参道では昔ながらの店と新しい店が共存しており、外国人には評価が高いという声もあった。また、ヨーロッパの雰囲気を楽しめる花のみちも好評であった。我々にとっての日常が、海外の方には響くものが存在していると感じた。こういったものを磨き上げていけばさらに良いコンテンツになり得ると感じた。

会長) 外から来た人にとっては、中の人々の当たり前が当たり前ではないもの。見せるほうは当たり前を見せたくないが、外から来た人はその当たり前を見たいと思っている。いつも見ているもの、いつも食べているものを紹介することは来訪者をがっかりさせてしまうと判断して見せることを躊躇してしまうことに注意したい。

委員) 将来のことを考え、このたび委員となることを決意した。今日一日で、自分が住んでいるまちのことでも知らないことが多いと感じた。また、市民が知らないからこそ新鮮な気持ちをもって体験することができるものも多いのではないと感じた。特に、西谷や武田尾エリアは市街地からアクセスしやすい自然のエリアでもある。また、阪神エリアでの連携により新たなモノができる可能性も感じた。

会長) 若い人が何を使っているか、高齢者は何を使っているか、外国人は何を使っているかという視点が必要である。日本人が思う以上に海外の方は不器用であるため、体験し、自ら作成するということが喜びを感じてもらえるものになる。また、ガイド育成では、実際にガイドする人に体験してもらうことが非常に有用である。ガイドする人が体験していないと深い視点での話ができなくなってしまう。自らが体験しないと、相手には伝わらない。

副会長) 県として展開されているテロワールという言葉は非常に良い。ストーリーを重要視されており、宝塚市ではこのストーリーのあるものが多い。今は、一人勝ちの時代ではないため、地域全体で盛り上げていくような取組をしていただくことに期待している。

会長) 宝塚魅力体験事業の説明において花のみちアートフラッグの話があったが、タイアップ事業の検討はできないものか。何かの宣伝や、公演中の宝塚歌劇の写真を展開するなど検討できればよい。今は100%補助の補助金もなくなっているため、相手が得をすること、相手が費用を負担してまでやりたいことを展開することが重要である。相手からやらしてほしいというものを展開できたら良い。本日もいろいろな団体の方が出席されているが、各団体において様々な協議会などに属しており、同じような事業を展開しているものもある。こういったものを無くすために、情報共有をしていくことが必要である。先ほどご意見が出たように、いろいろな取組をしても情報化されていないことが問題である。失敗こそ、すべて重要なことである。失敗から学ぶことができるもの。本日は積極的で前向きな話ができ、非常に楽しいものになった。

4 閉会